

+5 レベルアップシステム

目的:

この学習段位システムは、学習者の論理的思考力を伸ばすことを目的としており、段階的に思考力を強化し、自己改善能力を養います。学習者は段位ごとに設定された目標を達成することで、より高度な問題解決能力や論理的思考を身につけます。

システムの特徴:

- 段位毎に学習目標と基準を設定し、学習者は段位をクリアすることで論理的思考力を高めていきます。
- 日報や振り返りシートを通じて、自己分析能力や改善策を実行する力を育てます。
- 仮説思考を取り入れた学習計画や改善策を立案し、実行に移すことで論理的思考を深めます。

段位で理解できること

段位を通して、学習者は自身の学習状況を理解することができます。

表 1:

段位	学習状況	特徴
5 級	学習の基本を習得している段階。学習習慣がまだ定着していない。	学習習慣を身につけ、学習管理を始める。
4 級	学習時間が安定し、計画的に学習が進められている段階。	学習計画の実行力が高まり、思考力の基礎が育まれる。
3 級	受験基礎を固め、定期的に学習成果を出し始める段階。	自己学習をしっかりと行い、成績向上を実感し始める。
2 級	高度な問題解決能力を持ち、思考力を鍛えている段階。	論理的思考力が向上し、問題解決力を身につける。
1 級	高い学力と問題解決能力を持ち、深い思考を展開できる段階。	高度な問題に取り組み、深い思考と分析力を発揮する。

各段位の概要と基準

5 級（基礎レベル）

- 目標:
 - 学習習慣の定着と記録を習慣化する（例: 今月はこれを学んだ、理解できた内容）
 - 学習内容や気づいた問題点を簡潔に書くことから始め、基本的な振り返りを習慣化する（例: 今月は集中できなかった、理解が浅かった部分について記載など）
 - 改善案は「次回こうする」といった具体的な行動に繋げることを目指す（例: もっと集中できるように、学習環境を整える）
- 基準:
 - 学習時間：平均 1 時間
 - 振り返りシート提出頻度：月 1 回以上提出。
 - 以下のような KPT が記載できる：
 - Keep: 学習内容や良かったことを 3 つ書ける。
 - Problem: 課題や気づいた問題点を 1 つ以上書ける。
 - Try: 改善案を具体的に 1 つ以上挙げる。
 - 日報提出率（その日に出すこと前提）：85%
 - 以下のように日報を記載できる（学習内容を簡潔に記載。改善策や次回の学習内容についての予告があれば理想的。）：
 - 勉強時間: ●●
 - 勉強内容: 今日学んだ内容を簡潔に記載（例：数学の問題集、英語の単語暗記）。
 - 明日やること: 明日の学習予定を簡単に記載（例：英語の文法、数学の復習）

4 級（計画管理レベル）

- **目標:**

- 学習計画の実行と振り返りを強化する。
 - 学習内容や成果を具体的に記録し、課題の分析もより行動レベルに落とし込むことを求める。
 - 改善案も具体的な期限や方法を記入することで、計画的な学習を進める。

- **基準:**

- **学習時間:** 平均 2 時間
 - **振り返りシート提出頻度:** 月 1 回以上
 - **以下のような KPT を記載できる:**
 - **Keep:** 学習内容と成果をより具体的に書ける（例: 達成した問題集ページ数や単元）。
 - **Problem:** 課題を具体的な行動レベルまで分析できる（例: 数学の模試ができなかった理由を「●●が不十分だった」と分析）
 - **Try:** 次の改善策に期限や方法を明記できる（例: 来月半ばまでに数学の問題集 1 周）。
 - **月間の日報提出率（その日に出すこと前提）:** 90%
 - **以下のように日報を記載できる（今日の成果を具体的に記載。計画的に学習していることが示される内容）:**
 - **勉強時間:** ●●
 - **勉強内容:** 今日学んだ内容を具体的に記載（例: 数学の○○問題集、英語の長文読解）。
 - **明日やること:** 明日の学習内容を具体的に記載（例: 数学の○○章、英語の復習）。
-

3 級（改善力強化レベル）

- 目標:
 - 問題分析と改善の具体性を高める。
 - 問題点や課題を「なぜできなかったか」を深掘りし、仮説思考を使って改善策を提案できるようになる。
 - 具体的なアクションプランを立て、それを実行に移すことが望ましい。
 - 基準:
 - 学習時間：平均 3 時間以上
 - 振り返りシート提出頻度：月 2 回提出
 - 以下のような KPT が記載できる：
 - Keep: 成果や達成感をより論理的に説明できる。
 - Problem: 根本原因の分析（なぜできなかったのか？）を含められる。
 - Try: 仮説思考を取り入れた改善策を立案できる。
 - 日報提出率（その日に出すこと前提）：95%
 - 以下のように日報を記載できる（学習内容の詳細に加えて、成果や課題についても触れる。明日への改善点も意識して記載する。）：
 - 勉強時間: ●●
 - 勉強内容: 今日の学習内容を詳細に記載。進捗や達成感を数値で示すことができる。
 - 明日やること: 明日の学習計画を具体的に記載し、目標達成に向けての工夫を加える（例：復習時間を多く取る、苦手分野を重点的に取り組む）。
-

2 級（振り返りスキル強化レベル）

- 目標:
 - ロジカルシンキングや仮説思考を活用した振り返りを実施する。

- 学習成果をデータ化・グラフ化し、論理的に進捗を説明できるようになる。
 - 数値的な分析や比較を使って、自己改善のポイントを見つけ、実践する。
 - 新しい学習方法を取り入れ、試行錯誤の過程を記録する。
- **基準:**
 - **学習時間:** 平均 4 時間以上
 - **振り返りシート提出頻度:** 月 4 回提出（週 1 回ペース）
 - **以下のような KPT が記載できる:**
 - **Keep:** 学習成果をデータ化・グラフ化しながら説明できる。
 - **Problem:** 問題点を数値化または比較分析で示せる。
 - **Try:** 新しいアプローチや試行錯誤を積極的に記録・実践できる
 - **以下のように日報を記載できる（データやグラフを用いて振り返り、課題や成果を数値化。また、明日への改善策をロジカルに組み立てる。）**
 - **勉強時間:** ●●
 - **勉強内容:** 学習内容をデータ化やグラフ化し、振り返りを行う（例：進捗グラフ、得点分析）。
 - **明日やること:** 次の学習に向けて、仮説に基づいた計画を立てる（例：〇〇分野を重点的に復習、テスト問題を解く）。
 - **日報提出率（その日に出すこと前提）:** 100%
-

1 級（発信力・応用力強化レベル）

- **目標:**
 - 自分の学びを他者に発信し、フィードバックを基に改善策を実行に移すスキルを身につける段階。ここでは、自分の考えを論理的に整理して発信する能力と、それを受け入れて自己改善に繋げる力を養うことが目標。
- **基準:**

- **学習時間**：平均 5 時間以上
- **振り返りシート提出頻度**：月 4 回提出（週 1 回ペース）
- **以下のような KPT が記載できる**：
 - **Keep**：自分の取り組みを要約して他者に共有できる。
 - **Problem**： 以下のように課題や失敗について Why 分析を用いて深く掘り下げて分析できる
 - ・何がうまくいかなかったのか、どの部分に問題があったのかを自己分析する。
 - ・改善すべき点や学びを特定し、その原因を明確にする。
 - **Try**：具体的な改善策を立て、次に試すべき方法を明示できる（例：フィードバックを受けた内容を具体的に修正し、次回の実践で試す）
 - ・自分の学びや経験を振り返り、次回にどう活かすかを考える。
 - ・実践するための明確な行動計画を立て、その計画を実行する。
- **日報提出率（その日に出すこと前提）**：100%
- **以下のように日報を記載できる**
 - **勉強時間**：●●
 - **勉強内容**：学びを他者に発信できる形で要約し、実践的な応用を意識する
 - **明日やること**：他者のフィードバックを活かし改善したうえで、明日の実施内容を記載できる

Appendix

各段位と大学偏差値の関係性については、段位が学習進捗や思考力を示す指標として設定されているので、大学偏差値とは必ずしも直結しませんが、段位が進むにつれて論理的思考や問題解決力が高まり、結果的に受験の難易度に対応できるようになると考えられます。以下は、段位と大学偏差値の関係を簡単に示す例です。

表 2：

段位	大学偏差値	特徴
----	-------	----

5 級 (初級)	40～50	基本的な学習習慣が身につけており、学習内容をこなす力はあるものの、思考力や問題解決力がまだ発展途上。受験に向けた具体的な対策はこれから。
4 級 (中級下)	50～55	計画的な学習ができ、少し難しい問題にも取り組み始める。論理的思考が強化され、受験対策において一定の成果を感じる時期。入試の基礎的な問題に対して自信が出てくる。
3 級 (中級上)	55～60	問題解決力や論理的思考が強化され、受験対策において難易度の高い問題にも対応できるようになる。一般的な大学入試（例えば、国公立大学の中堅校や私立大学の上位学部）に対応できる力をつけ始める。
2 級 (上級下)	60～65	高度な問題に取り組み、深い思考を要する課題に対応できるようになる。論理的な解答ができ、模試でも高得点を取れるようになり、難関大学の受験に向けて実力がつく。特に推薦型入試や難関私立大学などに対応可能。
1 級 (上級)	65～70	高度な問題に対応できるだけでなく、自己管理能力や進路選択に対する明確なビジョンを持つ。大学受験においては、上位大学（国公立大学の難関学部や難関私立大学）に合格できるレベルに達している。論理的思考とクリティカルシンキングを駆使して、入試問題のほとんどをクリアする能力がつく。